

担当課名	現在の検討状況	タイトル	説明	課題の内容	ビジョン・あるべき姿	理想と現実のギャップ (5段階評価)	理想と現実のギャップ (備考)	公開日時
16 上下水道局上水運用センター	主に自動排水装置の検討を行ったが、具体的な活用展開には至っていない。	残留塩素濃度の適切な把握	適切な残留塩素濃度にするために、濃度と放水量を管理したい。	排水処理で注入する次亜塩素酸ナトリウムが水中の有機物と反応することで消毒副生成物が生成するが、水中の有機物によって高濃度の消毒副生成物が生成し、給水停止や摂取制限を実施するリスクが高まっている。現在は放水量と排水の取水管理による対策を行っているが、対策が追いつかず高濃度の消毒副生成物が生成する事例が起きている。 ※年間管末検査 8月×2日×12名/人=192名/月 月平均放水量7,700m3/月 月最大放水量14,000m3/月	残留塩素濃度を適切に把握し、適切な放水量で管理できることが理想といえる。残留塩素濃度と放水量を同時に管理できるシステムが望ましい。	4		2024/1/6 15:30
17 上下水道局上水運用センター	学術機関や民間企業との共同研究、実証実験を実施している。複数の観点から対策を検討したいため、今後も情報収集を進めていく。	消毒副生成物の予測と対策	水道水の消毒副生成物による給水停止や摂取制限のリスクを予測し、迅速な対策を行う必要がある	消毒副生成物による給水停止又は摂取制限が実施される水準値：9地点 最大影響指数：約1,050倍 実際の摂取制限日数：8日間 職員数：4名	天候や地域特性をもとに事前に消毒副生成物の上昇を予測できれば、事前対策や仮に高濃度の消毒副生成物が生成しても迅速に懸念に向かうことが可能と考えられる。原水の水質監視や配水管中の移動距離によるシミュレーション等ができれば理想的である。	5		2024/1/6 15:30
18 上下水道局料金課	特に排水設備の審査業務において継続して検討中であるが、良い事例を確認できていない。	給排水申請の審査業務の効率化	口渡・勾配などを確認するため時間がかかっている給排水申請の審査業務を効率化したい。	給排水申請の審査業務では申請書の記載内容、添付書類の確認のほかには給水装置及び排水設備の構造が法令等に定める基準に適合しているかの審査を実施している。排水設備計画については、図面に記載されている排水管の土質・口径・管種・延長・勾配等を基準に適合しているか担当者が確認している。特に、勾配については上下水の宅までの管径高さ及び管長の長さから計算にて確認しており、審査に時間を要している。	PDFデータの図面が審査基準に適合しているか自動的に確認できるようなシステムの構築。 →自動計算、基準外の場合エラーメッセージ等で通知する機能の付帯。	5		2024/1/6 15:30
19 上下水道局水道維持課	継続して検討中であるが、良い事例を確認できていない。	漏水調査の効率化	漏水箇所の特徴は、漏水探知機を使った人間の耳による判定になっていく。人の耳に頼らずに漏水箇所を特定できるようにしたい。	配水等の期間で、少量の漏水でも検知が必要な場合があるが、地表面に出ていない漏水箇所の特徴に着目している。 現在は、発着探知機によるA1漏水調査によりある程度取り込みは可能となっているが、それでも厳格な漏水箇所の特徴は、漏水探知機を使った人間の耳による判定になっている。 少量や山間部等の漏水がある箇所での漏水箇所の特徴には熟練した技術が必要であり、1日で調査できる距離も限られる。 ※管延長3,663km ○調査調査費用 →1日当たりの調査費用 60,000円 →3,663km×60,000円=219,780,000円 ○調査調査期間 →1日当たりの調査距離 5km 3,663km/5km=732日 732日/20日 (1月あたり稼働日) =36.6か月	人間の耳に頼らない漏水音を聞き分け、漏水箇所が特定できる技術、又は機器類、併せて、1日数10km程度で調査ができる技術。	5		2024/1/6 15:00
20 上下水道局水道維持課	継続して検討中であるが、良い事例を確認できていない。	水管橋の点検方法の改善	水管橋の軒下の点検が困難であり、低コストで実施できる方法を模索したい。	現在の、水管橋の軒下の点検は目視によって行われていますが、点検が困難な箇所が多数あります。図が示すガイドラインに沿った点検を実施するためには、足場の設置が必要ですが、費用や協議に時間がかかります。水管橋の数は1,201箇所あります。 この課題を解決するためには、安堵でかつ国のガイドラインに沿った点検方法を開発する必要があります。具体的には、無人航空機（ドローン）を活用した点検や、センサーを使用したリアルタイムモニタリングシステムの導入が考えられます。	橋梁かつ低コストで、図が示すガイドラインに沿った点検の実施を行うことができます。	5		2024/1/5 18:00
21 産農部森林課	豊田市産材の活用拡大検討と併せて、検討・立派中	森林資源を活用した山村部の産業化	森林が産業として成立しなくなっている	森林資源を活用した新たな産業（サービス産業など）を山村部で展開することで、森林の価値を再評価し、山村部に人と金が増えるようになる。具体的な取り組みとしては、森林フリーの開発や森林セラピーの提供などが考えられる。	従来の林業以外の森林資源を生かした産業が山村部で数多く展開され、山村部人と金が増えている	5		2022/12/17 10:00
22 産農部森林課	豊田市産材の活用拡大検討と併せて、検討・立派中	森林資源を活用した山村部の産業化	地域における木材利用、流通体制を構築し、木材利用を促進する	地域において、木材利用や流通の仕組みが不十分である課題があります。現在、ウッドピラー豊田が地域材のコーディネートを行っています。木材の生産者や、現場の拡大や向上が図られています。この課題を解決するために、地域材の供給・流通体制を構築し、木材利用を促進する取り組みが必要です。	現在、ウッドピラー豊田がハブ的に地域材のコーディネートを行っています。木材の生産者や、現場の拡大や向上が図られています。木材の生産者や、現場の拡大や向上が図られています。この課題を解決するために、地域材の供給・流通体制を構築し、木材利用を促進する取り組みが必要です。	5		2022/12/17 10:00
23 産農部森林課	豊田市産材の活用拡大検討と併せて、検討・立派中	カーボンニュートラル	伐った木は有効活用し、地域経済の循環とカーボンニュートラルを実現する	現在、伐れた木は有効活用し、地域経済の循環とカーボンニュートラルを実現する。また、輸出困難や輸送コストが高いため、効率的な活用が難しい状況です。この課題を解決するためには、木材の有効活用方法や輸送の効率化を検討する必要があります。	伐った木はすべて有効活用され、地域への経済の循環、カーボンニュートラルによつたくなっている。	5		2022/12/17 10:00
24 産農部農政企画課	個人情報の管理等の課題があるため、継続して検討していく。	窓口相談時間の短縮	窓口相談の時間を短縮するための提案	現在、窓口相談では個別に相談を受けるため、1件当たりの相談時間が長時間となっています。この課題を解決するために、窓口相談システムを導入し、相談項目を入力するだけでAIが相談の判定を行うことができるようにすることを提案します。これにより、相談時間を短縮し、効率的な窓口相談を実現することができます。	〈新発〉窓口相談システムを導入することで、相談項目を入力するだけでAIが相談の判定を行い、相談時間を短縮することができますようになります。これにより、利用者は迅速かつ効率的に相談を行うことができ、行政側も効率的な対応が可能となります。	5		2022/12/17 10:00
25 産農部農政企画課	商品開発や販路開拓に係る費用の一部を補助制度にて支援 各農業者によって熟度が異なることから熟度に応じた幅広い手法の提案を要望	販路拡大	多様な業種との連携により、幅広い販路を開拓するための課題	現在、農業者の販路拡大が盛んでおらず、PR活動や農業者の意識向上が必要です。ビジョンとしては、多様な業種との連携を通じて、幅広い販路を開拓し、ネット通販などを活用して販路を拡大することが目指されています。	多様な業種との連携により、多様な販路が開拓されており、ネット通販などを活用し、幅広い販路につなげている状況を実現する	5		2022/12/17 10:00
26 産農部農政企画課	農業振興課及び豊田市農作物等鳥獣害対策連絡協議会で事業を企画 立案し集落を巻き込んで事業実施している。	獣害対策	獣害対策の終わりが見えない課題	獣害対策は、時間と労力と費用をかけた様々な取組が行われていますが、農作物の被害は無くならず、農家の苦慮感が低下しています。また、野生動物に由来する感染症の発生も拡大しており、人と野生動物の共存が求められています。	人と野生動物が共存するための仕組みが実現し、安心して農作物の収穫でき、農業者が維持され、農地が保全されている社会です。	4		2022/12/17 10:00
27 産農部農政企画課	農業振興課で県、県の補助事業を活用しながら、既存事業を実施している。	山村部と平坦部の農業課題	山村部では耕作条件が不利で高齢化や担い手不足が問題。平坦部では経営効率化が求められる。	山村部では耕作条件が不利で高齢化や担い手不足が問題。平坦部では経営効率化が求められる。	農業の生産性が高く、エリアを問わず収益力の高い農業が展開され、農業が他産業と比較して同等以上の労働環境を確保している状況を目指します。また、魅力的な産業として新規就業者が増えている状況を実現します。	5		2022/12/17 10:00
28 産農部農政企画課	市及び豊田市産産物ブランド化推進協議会にて子育て世代ターゲットに地産地消推進事業を随時実施 事業内容のマンネリ化に伴い新たな視点での事業アイデアを積極的に募集中	労力に見合った価格設定の課題	マーケットの圧力により、労力に対して価格が見合っていない	現在、安い価格での商品提供が求められる中、労力に見合った価格設定が困難となっています。農業者などの生産者は、十分な労力をかけて商品を生産しているにも関わらず、価格が低く抑えられていて、収益が十分に得られない状況です。このような状況では、生産者のモチベーションが低下し、生産量や品質の低下につながる可能性があります。	市内で生産された農産物が市内で消費される	5		2022/12/17 10:00
29 福祉部よりそい支援課	単発の支援体制整備事業において、各支援機関が情報交換や連携を実施しているが、従来のやり方は福祉サービスが届かない市民に 対する支援を検討している。 中でも、具体的に検討しているものは、相談窓口の（時間的、心理的な）ハードルの高さを解消のため、例えば、A1チャット相談サービスを市HPに導入することで、本人の相談内容の主張を把握し、適切な支援機関を紹介するようサービスである。	今までになかった福祉サービスのアプローチ検討	本来、福祉のサービスを必要とする人や家庭に対して、相談支援やサポートが適切に届いておらず、また実務的な窓口の制約や自立に必要な支援が従来の福祉サービスに存在しないなどの課題がある。 課題は以下の3点 ①福祉サービス情報の新しい届け方、②相談窓口のアクセス不足解消、③支援メニュー（就労や住居確保など）の強化	①福祉サービス情報の新しい届け方 福祉サービスを必要とする人や家庭に対し、相談支援や各種サポートが十分に行き届かない事例が散見される。その背景には、身体的・精神的な制約や高齢に伴う受容能力の低下といった能力的要因、家庭や職場における情報格差の拡大など多岐にわたる要因があり、相談に踏み切れない心理的ハードル、さらには単純な認知不足といった複数の要因が複合的に作用していると考えられる。 ②相談窓口のアクセス不足解消 こうした課題を解決するためには、ニーズの多様化に準じた専門スタッフの確保、人員不足や対応時間制約の解消、オンライン相談や訪問支援の仕組みが十分に整備されていないことから、利用者一人ひとりに合わせた柔軟なフォローアップが行き届いていない現状にある。 ③支援メニュー（就労や住居確保など）の強化 利用者の自立につながる就労支援や住居確保については、現行制度や予算の枠組みによって支援メニューが限定的となっており、職業訓練機会や住居の多様性が乏しいため、利用者の希望と現実とのギャップが解消されにくい状況である。	生きづらさ等を抱える者や世帯に支援機関が行き届き、助けを求める者がすぐに適切な相談窓口につながり、適切な福祉サービスや支援を受けられる	3	課題の内容を参照	2022/12/17 10:00
30 福祉部地域包括ケア企画課	完全なるひきこもりになる前に、自宅以外の居場所へのつなぎを実施したいが、具体的な居場所を提示してあげることが困難。 重層的な支援体制を活用し、いざひきこもりになってしまいう可能性のある方がいる世帯への支援を多機関で実施している。どちらかというと制度福祉ではない地域資源での対応がメイン。	ひきこもりになってしまいう人たちの居心地のよい場所の不足	ひきこもりになってしまいう人たちは、社会とのつながりや支援を受ける場所が不足しています。彼らが自分自身を受け入れられる場所や、他の人と交流する機会が少ないため、孤独感や生きづらさを感じています。この課題を解決するためには、彼らが自分の居心地のよい場所を見つけることができる環境を整える必要があります。	生きづらさを抱えた人たちが、自分の居心地のよい場所を見つめることができ、社会と縁が繋がっている状態を実現したいと考えています。	本人に適した居場所が多様である理想と現実のギャップが存在しています。現状では、ひきこもりになってしまいう人たちが自分が合った場所を見つめることが難しい状況です。	4		2022/12/17 10:00
31 福祉部生活福祉課	○従来の家計改善事業（委託）及び家計改善相談員（直営）による支援を継続しているが、キャッシュの限界に直面している。 ○デジタル技術の活用については、対象者（生活保護受給者）の情報リテラシーが一般よりも低い状況があり、実現可能な手法の立案に困っている。	生活保護受給者の金銭管理支援	金銭管理ができない生活保護受給者の支援が必要	生活保護受給者の中には、金銭管理ができず、1ヶ月のお金を短期間で使い果たしてしまっている。この課題を解決するためには、適切な金銭管理のサポートが必要です。生活保護受給者が健康で文化的な最低限度の生活を営むためには、支出をコントロールする能力が重要です。	金銭管理ができる生活保護受給者が適切に支出をコントロールし、健康で文化的な最低限度の生活を営むことができる社会を実現したいと考えています。	4		2022/12/17 10:00
32 福祉部生活福祉課	○フリーード導入やシステム標準化の進捗と影響を踏まえながら、継続して検討している。	紙で保管している台帳を電子で管理	紙媒体で保管している台帳を電子化し、管理・検索・抽出を容易にしたい。	現在、生活保護台帳などの重要な情報は紙で保管されていますが、紙媒体では管理や検索が煩雑であり、必要な情報を素早く抽出することが困難です。電子化により、情報の管理・検索・抽出を効率化し、生活保護の受給者や関係者にとって利便性を向上させることができます。また、データのバックアップやセキュリティ対策も強化できます。	紙媒体で保管している生活保護台帳を電子化し、管理・検索・抽出を容易にすることで、情報の利用性と効率性を向上させ、生活保護制度の運営をより効果的に行いたい。	5		2022/12/17 10:00
33 福祉部障がい福祉課	障がい者の増加や高齢化に伴う障がいの重篤化等の問題が進む中、限られた人員と予算の中で、真に必要な施策を検討し、実施することが求められている。特に「給付ききき」の課題への対応は喫緊の課題であり、市内のグループホームの充足状況についての整理が急務となっている。 真に必要な障がい者施策を検討する上で必要となる基礎情報を収集・分析するため、令和7年度において、障がい者、市民、事業所を対象とした実態調査を実施する。	既存障害支援サービスから必要サービスへの転換	既存の障がいサービスを必要サービスに転換する必要がある	現在の障がいサービスは、障がい者の実際のニーズに合わない場合があり、真に必要な福祉施策を考え直し、障がい者が本当に必要とするサービスが提供される状態にする必要があります。例えば、既存のサービスでカバーできないニーズや、不足しているサービス特定し、それに対応する新たなサービスを提供する必要があります。	障がい者にとって真に必要な福祉サービスをイチから考え直し、本当に必要なサービスが提供されている状態にしたい	5		2022/12/17 10:00
34 福祉部障がい福祉課	・タクシー事業者・障がい福祉課ともに、毎月月の請求時に使用済タクシー券を人が手で計数している ・紙のタクシー券で事業実施しており、年度当初は特定郵便で交付しているにもかかわらず「受け取っていない」というトラブルが発生している 情報戦略課が募集した令和7年度のBPR伴走支援に応募し、高齢者のタクシー助成券を所管している高齢福祉課と合同で、「利用者のタクシー運賃支払い」、「タクシー事業者への請求」の電子化の可能性を検討中である。	タクシー料金助成券の電子化	紙のタクシー料金助成券を電子化し、内部の処理を効率化する	現在、タクシー料金助成券は紙で発行され、支払いや処理も手作業で行われています。この手法では処理が煩雑で時間がかかり、障がい者の利用にとって不便です。そこで、タクシー料金助成券を電子化し、QRコード決済による簡単な支払いを実現し、月内の処理も電子化することで効率化を図りたいと考えています。	将来的には、障がい者のタクシー料金助成券が電子化され、QRコード決済により簡単に支払いができるようになります。また、市内の処理も電子化されることで、手作業にかかる時間や手間を大幅に削減し、効率的な運営が可能となります。	4		2022/12/17 10:00
35 福祉部高齢福祉課	一人暮らし等支援が必要な高齢者の情報をデータベースに保管し、状態や状況に応じた見守り支援を迅速に行うことができる(個人情報保護の観点も踏まえた仕組み及び技術を情報収集している。	一人暮らし高齢者の見守り支援の充実	一人暮らし高齢者の登録制度では、約12000人の対象者がおり、登録率や接触困難な人も存在し、状況把握が困難です。事件や事故の発生後にならないことが重要です。見守り支援の充実が必要である。	一人暮らし高齢者の登録制度では、約12000人の対象者がおり、登録率や接触困難な人も存在し、状況把握が困難です。事件や事故の発生後にならないことが重要です。見守り支援の充実が必要である。	一人暮らし等支援が必要な高齢者の情報をデータベースに保管し、状態や状況に応じた見守り支援を迅速に行える状況を実現したい。	5		2022/12/17 10:00
36 福祉部介護保険課	介護人材不足対策として各種事業を行っているが、特に魅力発信分野においては、民間のノウハウやアイデアを活かして、効果的に行うことができない検討中。	介護の仕事PR	介護職として働くことへのイメージ（柔軟な働き方）を広げたい。	介護サービス業界では、介護人材の不足が深刻な問題となっています。人口の高齢化に伴い、介護がますます需要が高まっている中で、十分な人材確保ができていません。この課題を解決するため、介護の仕事の魅力や働く人のイメージを多くの人に伝える必要があります。介護の仕事は「3K」と言われ、大変な仕事という印象が強いですが、「スゴッワーク」や「働き甲斐」など、柔軟な働き方が求められる昨今の状況において、多様な働き方ができるのが介護の仕事の強みの一つです。しかし、「3K」のイメージが先行し、そうしたイメージが広まることが懸念されています。これまでにない新しい発想や手法で、介護職として働くことへのイメージ（柔軟な働き方）を広げたいと考えています。	介護の仕事の良さ（柔軟な働き方）を市民の目に正しく理解してもらい、その結果として介護職に就く方が増える。	4		2022/12/17 10:00